




依然として割安な水準にある米国銀行株式

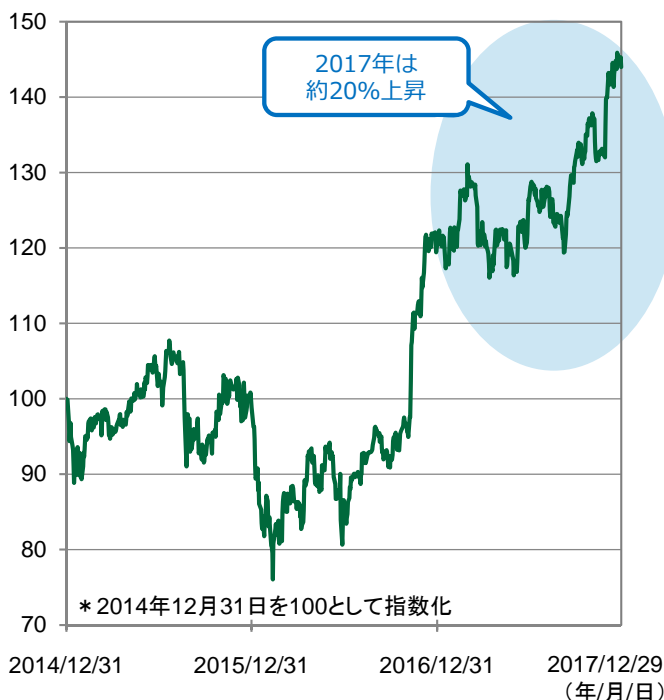
米国銀行株式のポイント

<p>1. 景気拡大による米国銀行の収益拡大期待</p>	<p>(1) 景気拡大による貸出増加 (2) 金利上昇による収益拡大</p>
<p>2. 米国銀行を取り巻く構造的な変化</p>	<p>(1) 活発なM&Aによる事業拡大・効率化 (2) 税制改革・金融規制緩和</p>
<p>3. 魅力的なバリュエーション</p>	<p>長期過去平均と比較したPBR (株価純資産倍率) の割安感  今回はココにフォーカス!</p>

緩やかな景気拡大が続いている米国では、堅調な経済指標を背景に2017年には3回の政策金利の引き上げが行われ、2018年も段階的な利上げが見込まれています。また、2017年12月には税制改革法案が成立し、連邦法人税率が35%から21%へ引き下げられることとなりました。

このような環境下、米国銀行株式は、昨年2017年の1年間で約20%上昇しました。大幅に上昇した米国銀行株式ですが、PBR(株価純資産倍率)では1.4倍(2017年12月末時点)と、過去平均の1.7倍と比較して、依然として割安な水準にあると考えられます。

米国銀行株式の推移
(2014年12月末～2017年12月末、日次)



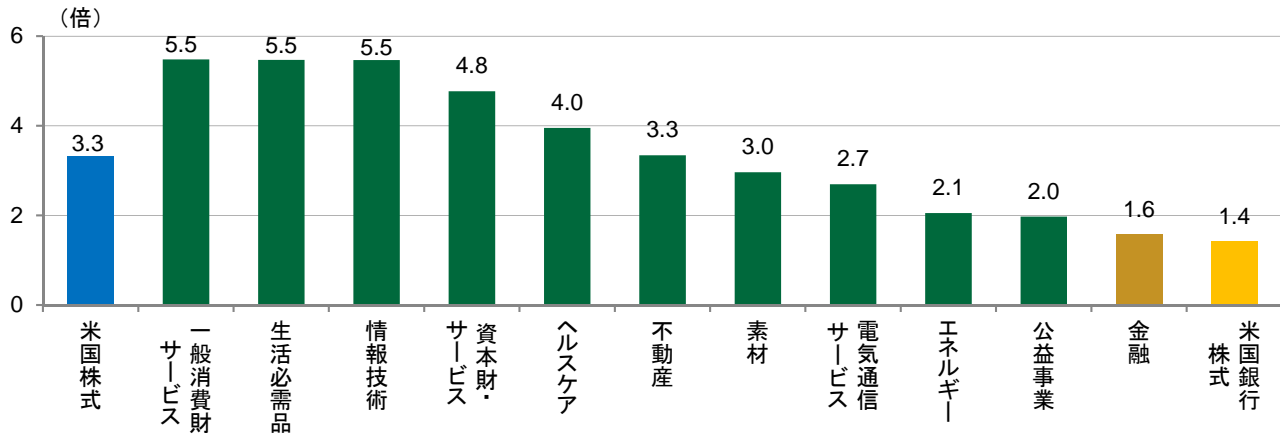
米国銀行株式: S&P500銀行株指数
出所: ブルームバーグのデータをもとにマニユライフ・アセット・マネジメント株式会社が作成

米国銀行株式のPBRの推移
(1990年12月末～2017年12月末、月次)



また、PBRを業種別で比較してみても、米国銀行株式は他業種に比べて相対的に低水準であり、米国株式全体の中でも割安な業種であると考えられます。

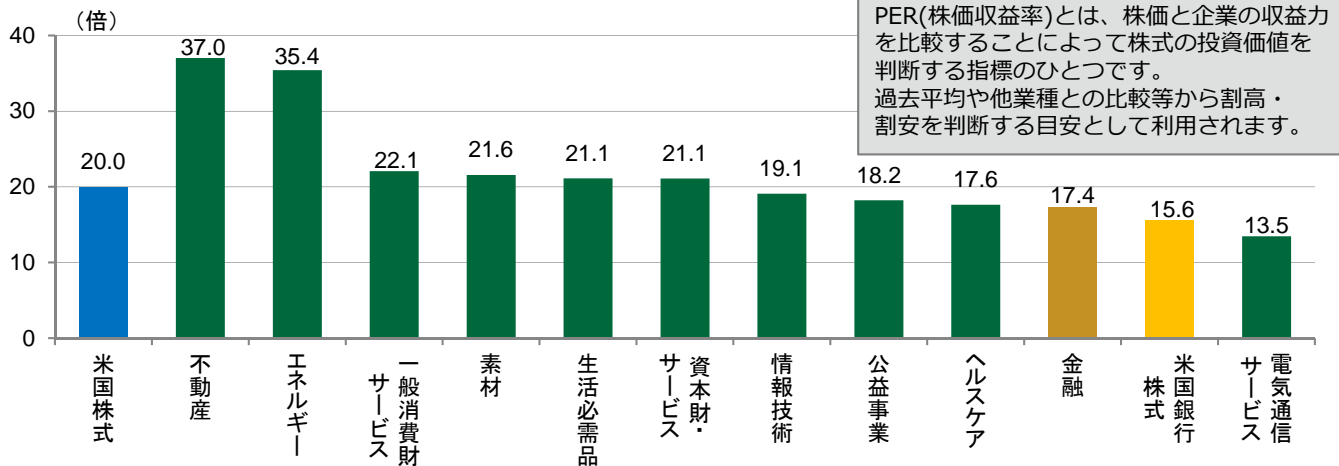
■業種別PBR比較(2017年12月末)



なお、PER(株価収益率)でも、米国銀行株式は他業種に比べ相対的に低水準です。

米国では、緩やかな景気拡大・金利上昇局面にあることに加え、税制改革や今後見込まれている金融規制緩和など、構造的な変化も起こり始めています。米国銀行株式はこれら環境・政策等の大きな恩恵を受けるとみられており、収益拡大期待を背景に、今後もさらなる株価上昇が期待されます。

■業種別予想PERの比較(2017年12月末)



PER(株価収益率)とは、株価と企業の収益力を比較することによって株式の投資価値を判断する指標のひとつです。過去平均や他業種との比較等から割高・割安を判断する目安として利用されます。

米国銀行株式：S&P500銀行株指数、米国株式：S&P500種指数、各業種：S&P500業種別指数
出所：ブルームバーグのデータをもとにマニライフ・アセット・マネジメント株式会社が作成

[ご留意いただきたい事項]

- 当資料は、マニライフ・アセット・マネジメント株式会社(以下「当社」といいます)が、投資判断の参考となる情報提供を目的として作成したものであり、特定の投資商品の推奨を目的としたものではありません。
- 当資料記載のデータや見通し等は、将来の運用成果等を示唆または保証するものではありません。
- 当資料は、信頼できると考えられる情報をもとに作成しておりますが、正確性、適時性を保証するものではありません。
- 当資料の内容およびコメントは資料作成時点における経済・市場環境等について当社の見解を記載したもので当該見解は予告なく変更される場合があり、将来の経済・市場環境の変動等を保証するものではありません。
- 各指数に関する著作権等の知的財産、その他一切の権利は、各々の開発元または公表元に帰属します。
- 投資信託のお申込みの際は、必ず最新の投資信託説明書(交付目論見書)で商品内容をご確認の上、ご自身で投資のご判断をお願いいたします。
- 当資料に関する一切の権利は、引用部分を除き当社に属し、いかなる目的であれ当資料の一部または全部の無断での使用・複製はできません。

マニライフ・アセット・マネジメント株式会社

金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第433号

加入協会：一般社団法人投資信託協会、一般社団法人日本投資顧問業協会、一般社団法人第二種金融商品取引業協会